

# ちぎり絵 力作並ぶ

## 二分脊椎の中山さん 20点、作品展彩る

北中城

【北中城】北中城村喜書場のあやかりの杜で開かれている和紙ちぎり絵教室の作品展が13日から27日正午まで、入り口の展示コーナーで開かれている。生まれつきの病気で身体に障がいがある中山友梨香さん(23)と西原町IIの作品も20点並んでいる。ちぎり絵を始めて2年半で制作した友梨香さんの力作が、ひととき輝きを放っている。



これまで作った作品を前に家族に囲まれる中山友梨香さん(中央)と指導している喜屋武千代子さん(前列右端)＝17日、北中城村のあやかりの杜

友梨香さんは生まれつう。母の須雅子さん(47)とき、脊椎が割れている二分は、友梨香さんが生まれ分脊椎という病気と、頭た時に医師から「自分の水がたまる水頭症を患 意思で動くのは難しい」

と言われた。歩くのも不自由で、座ることすら難しかった。

3歳から中部療育医療センターに通所後、鏡が丘特別支援学校に入学した。学校でできた友達の存在、先生の支えが友梨香さんの表情を明るくした。勉強や絵画などにも

励んだ。しかし、卒業後は何かに挑戦する機会が減ってしまった。そんな中、2015年、新聞の折り込みチラシに入っていた方ルチャースクールの案内にあった「ちぎり絵教室」の文字が友梨香さんの目に留まった。「これをやっ

てみたい」。早速講師の喜屋武千代子さん(68)に連絡し、入会した。もともと絵と細かい作業が好きな友梨香さん。「和紙を細かくちぎるの」は難しいが、完成した時がうれしい」と、どんと



喜屋武千代子さん(右)の指導で、もくもくとちぎり絵に取り組む中山友梨香さん＝17日、北中城村のあやかりの杜

んとめり込んでいった。喜屋武さんも「素直に一生懸命取り組んでいる。2年で20作品を作るのはすごい」と舌を巻く。

友梨香さんは「海の風景面に挑戦したい」と意欲を見せる。喜屋武さん

と約束した「20点作ったら、展示する」を果たした。水彩画のように鮮やかなちぎり絵。友梨香さんのちぎり絵が、周囲を彩っている。問い合わせは、あやかりの杜 ☎098(9883)8000。